

業務部速報

No. 12

発行 15. 7. 8

JR東労組 業務部

申1号 第31回定期大会発言に基づく申し入れ **団体交渉1回目**

第4項 JR北海道に派遣されたJR東日本一部経営幹部が企画した「現場力向上に向けた講演会」に関する事実経過を明らかにするとともに、今後の乗務員基地統廃合施策に対するJR東日本としての見解を示すこと。

JR 北海道への派遣の目的は？ → 安全管理体制の確立、北海道新幹線開業準備の支援。

JR 北海道への派遣者が組合掲示板へのケチ付け、裏面添乗をしたことへの JR 東日本としての見解は？

今まで直接言われた事がないので、事実を確認していない。 **確認し別途示すことを確認！**

講演会の事実経過は？「基地統廃合の施策で、いかに組合を押さえつけたか」との内容と聞いている！

JR 北海道から属人に講演依頼があった。
職場管理や人材育成の現場力向上の内容で講演依頼があった。それ以上は聞いていない。
結果として、一部に趣旨に対して誤解があり、準備不足との判断で JR 北海道が中止した。 **我々の認識と違う！**

講演内容を事前に把握しないのか？ → ケースバイケース。今回は把握していない。 **対立**

JR 東日本が派遣した人の責任は JR 東日本の問題だ！

JR 東日本の責任において派遣している。
「責任ある行動はしてもらいたい」として送り出している。 **事実を認定せず、具体的な責任に言及せず！**

派遣した人が「三流会社のクズ」との発言をしている。人間性を疑う！！

本人、JR 北海道に確認し、そのような事実はない。 **対立 実際に聞いた人がいる！**

乗務員基地再編成が組合を押さえ込むとの考えで行われているならば、認められない！！

そのような目的は一切ない。血の入れ替え、労務政策としては一切考えていない。 **確認！**

安全、人材育成の要職を担う人がこのような発想する事自体が問題だ！ 早急な整理を要する
対立、認識が合わないで済まされる問題ではない！！

第5項 通告伝達システムは、安全管理および運行管理をおこなう上で重要なシステムであり、運転通告の重要性を再認識した上で取り扱うこと。
また、通告伝達システムに不備がある状態での運用は行わないこと。

確認事項

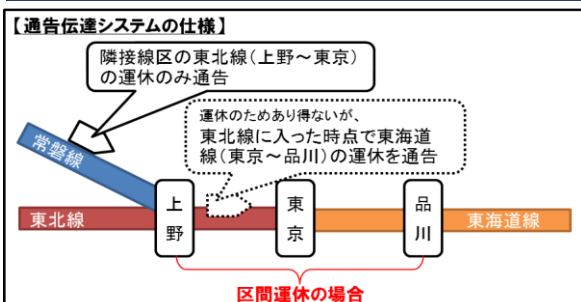
- 通告は、安全を確保する上で重要であり、内容を間違えれば重大事故に発展しかねない。
- 通告伝達システムは、通告内容を文字情報により確実に伝えるためのもの。
- システム故障時は、無線通告、駅通告により行う。(正常な場合でも、今でもやっている)

その上で

常磐線上野～品川間運休の場合、システム上「上野～東京」運休しか示されない。「上野～品川」と読み替えるように指導されていた。

「読み替え」の指導は誤りであった。 **確認！**

システム上、多くの情報が送られ誤解が生じることを防ぐため、隣接線区までの情報を送信している。(図参照)



本来は「上野～品川運休」と通告されるべき！
通告の重要性を再認識、本来あるべき姿にすべき！
システムで正しい通告がでないならば、紙でやるべき！
今も職場は苦勞している！本来開業前に潰すべき課題！
問題の先送りはできない！！

→ 早急に関係箇所と詰めて方向性を出す事を確認し、継続議論！

「安全」を最優先にした職場・職場風土を創り出そう！！